

様式 2

令和 3 年度 墨田区立第四吾孺小学校 経営計画書

校長名 清水 雅也

学 校 目 標	◇健康で心豊かな子 ◇力を合わせてつとめをやりとげる子	◇よく考え進んで実行する子 ◇礼儀正しい子
目指す学校像	◇学ぶ力が伸びる学校	◇連携・発信する学校 ◇安全・安心な学校
目指す子供像	◇元気でいきいきと学び、運動する子 ◇高め合い、高め合う子	◇四吾小の一員として、互いの良さを認め合い、高め合う子 ◇地域の中で育ち、社会に貢献する子
目指す教師像	◇自ら学び、自己研鑽する教師 ◇地域社会の期待にこたえる教師	◇教育公務員としての自覚をもち、保護者・地域社会の期待にこたえる教師 ◇「褒める・認める・きちんと諭す」ことができる、あたたかく、厳しく、情熱的な教師

項 目	取組の視点	取組指標	成果指標
各教科指導等	確かな学力を育てるための、分かりやすい授業の実施等	◇各教科における「 <u>考えを深めるための言語活動のあり方</u> 」についての研究推進（校内研究）。 ◇すみだ GIGA スクール構想の推進。→ICT 機器を活用した <u>ステップ1</u> の授業・学習の展開。 ◇朝学習・放課後補習等の充実。 ◇読書指導、調べ学習の充実。	◇教科を限定せずに、研究授業 3 回・講演会 2 回を設定。考えを深めるための言語活動の充実に取り組む。 ◇全教員・児童がタブレットを有効活用し、ステップ 1 の授業・学習の達成を目指す。 ◇国語算数を中心に、基礎力定着をめあてとした朝学習を意図的計画的に実施（週 3 回）する。SST 等を活用して、個別補習や宿題チェックを行う。→児童アンケート「よくわかる」を 80%以上。 ◇図書館司書と連携し、ブックトークや調べ学習の充実を図る。地域図書館の団体貸し出しも定期的に活用する。
	特別な支援を必要とする子供に対するの、組織的な支援等	◇連絡会議の定期開催（最低月 1 回）と組織的な対応。 ◇通常学級と特別支援学級（たんぼ学級）との連携を通じたインクルーシブ教育の充実。 ◇関係諸機関との連絡・活用。	◇要支援児の実態を把握し（月 1 回、ケース会議実施）、適切な指導を即時行う。 ◇交流授業・活動を意図的計画的に実施し、社会性・障がい理解等の伸長を図る。→体育的・学芸的行事、特活等を中心に毎月実施。 ◇特支委員会で困難と判断されたケースは、専門機関へ対応の協力を要請する。
	社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等	◇全教育活動を通して、意図的計画的なキャリア教育を実施。	◇地域人材・機関による体験学習を全学年 1 回以上実施。
	教員の指導力・授業力を高めるための、組織的な取組等	◇校内 OJT の推進と充実。 ◇管理職による授業観察の実施。	◇ <u>経験 3 年目以下の教員</u> による主幹・主任教諭の授業参観（月 2 回実施）。 ◇管理職による定期的な授業観察を年 2 回以上実施する。

様式 2

生活指導等	問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組等	<p>◇全教員の共通認識・理解による問題行動の未然防止・解決。</p> <p>◇いじめ・不登校対策の連絡会議の定期開催（最低月1回）と組織的な対応。</p>	<p>◇週1回の生活指導朝会、年3回の児童理解の会により、全教員が全児童の顔・氏名・実態を把握し、共通認識のもとで指導にあたる。</p> <p>◇いじめ=いつでも起こりうることであるという意識のもと、未然防止・早期解決を徹底する。→児童の記録・報告を毎日行う。</p> <p>◇不登校=定期的に連絡し、現状を把握する。必要に応じ外部機関へ協力を依頼する。</p> <p>◇いずれも月1回の対策会議を実施し、情報の共有化を図り、組織的に対応する。</p>
	基本的な生活・社会習慣、人間関係作りのための心の教育等	<p>◇校長のリーダーシップによる、「墨田区でイチバン・カッコイイ小学生になる作戦=グー（粘り抜く）、チョコキ（いつもニコニコ、いじめはダメ）、パー（パッ=あかるく元気にあいさつ）」の展開。</p> <p>◇生活指導の徹底。</p> <p>◇道徳教育の充実。</p>	<p>◇ゲーチョコキパーを合い言葉に、あいさつ運動や校長講話・学校だよりによる発信を実施し、良好な人間関係を構築する。</p> <p>◇学校生活の基本「四吾スタンダード」を設定し、児童・保護者に周知徹底する。→リーフレット作成・配布、学校・学年便りで徹底を要請する。</p> <p>◇長期休業明けに生活指導リズムチェックを実施（年3回）し、規則正しい生活習慣の定着を目指す</p> <p>◇道徳教科書の全単元の指導を計画的に実施する。道徳授業公開は、現状況下で可能な形で実施する。</p>
	安全を確保するための取組等	<p>◇健康・安全な生活環境づくりの推進。</p> <p>◇食育・アレルギー対策の充実。</p> <p>◇人権教育の充実。</p> <p>◇防災教育の充実。</p>	<p>◇月1回の保健指導・安全指導の確実な実施。</p> <p>◇体力調査結果を分析よる体力向上策を立案、実施する。</p> <p>◇外部機関による情報モラル教室を年1回以上開催する。家庭とも連携し、家庭ルールの徹底を図る。</p> <p>◇アレルギー対象児童は、年1回の保護者面談を実施。組織的な対応の徹底を確認。</p> <p>◇食育の充実を図り、残滓率の常時5%以下を目標とする。</p> <p>◇人権プログラムに基づいた意図的計画的な指導（日常+道徳での指導）を行う。</p> <p>◇戦災・震災の教訓をふまえた防災教室を年1回実施する。</p> <p>◇学校独自の防災体験教室やPTA主催の防災お泊まり会を実施する。→感染症の状況により変更あり。</p>
学校の管理運営	<p>◇分掌組織内でのOJT推進。</p> <p>◇週案簿の全員提出</p> <p>◇主幹主任の能力開発。</p>	<p>◇OJTが円滑に進むよう、職層を意識した組織編成とする。</p> <p>◇毎週、長・副2名で週案簿を確認し、教育活動の適切な実施を図る。</p> <p>◇管理職と主幹主任の会議を週1回実施。学校運営・経営への参画意識を高める。</p>	

様式 2

	<p>子供の実態に合わせた教育目標設定及び評価等</p>	<p>◇各種評価の総合的な分析結果に基づく目標等の設定。</p>	<p>◇内部・外部評価、各種アンケートを総合的に分析し、毎年度末に次年度目標及び具現化策を再設定する。</p>
	<p>教育環境・設備等の整備状況等</p>	<p>◇施設安全確認の徹底。 ◇施設の有効利用の促進。</p>	<p>◇月1回の施設安全点検の徹底（管理職が自らの目で最終確認を行う）。 ◇未整備の教室・施設の整理整頓を毎月点検・整備する。 ◇修理・改修が必要な施設については、管理職がその状況や理由を役所担当者に直接説明し、改善を図る。</p>
	<p>職員の健康を守る労働環境づくり</p>	<p>◇心身の健康管理の徹底。 ◇超過勤務時間の短縮と育児休業取得の推進。</p>	<p>◇メンタルチェックの結果を分析し早期発見に努め、必要に応じて早期受診を勧める。 ◇出退勤時刻の記録を分析・提示し、超過勤務月40時間以内の実現を目標とする。また、男女を問わずに育児休業を取得しやすい協働的な職場環境・体制の実現を目指す。</p>
家庭・地域連携	<p>教育方針や日常の教育活動の様子などを伝える取組等</p>	<p>◇学校便り、学校HP、各学年通信等を通して、教育活動の実際を伝える。 ◇感染防止対策を講じた上での各種公開の実施。</p>	<p>◇学校便りの内容の充実を図る（写真等を活用し学校生活の様子を可視化する）。 ◇毎週1回、学級便りを発行。 ◇掲載内容の充実を図り、月2回以上HPを更新する。 ◇人数・時間等を調整しながら可能な範囲で実施。</p>
	<p>保護者や地域の理解や協力を得た教育活動の推進等</p>	<p>◇地域人材を活用した体験学習の実施。 ◇PTA・地域行事への教員の参加増。 ◇各種教育活動への保護者ボランティアの確実な参加。</p>	<p>◇近隣商店街での職業体験を実施する（3年生・年1回）。 ◇各行事への参加・協力目標をひとり年間2回以上とする。 ◇運動会、持久走大会、図書ボランティア、あいさつ運動等への参加率は、前年比100%を継続する。</p>
	<p>幼保小中連携の推進</p>	<p>◇教員連携の充実＝顔と名前がわかる連携・交流活動。 ◇児童連携の充実。</p>	<p>◇近隣小中学校で、年2回の授業公開を実施。 ◇幼保園児との交流の実施（学校案内、読み聞かせ）。 ◇中学校での体験授業を2回以上（部活体験含む）実施。</p>